

新撰六帖

六

		一	八	和
		一	三	書
		一	〇	門
六	四	一		
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	內	
二		一		和
〇		八		
函		三		書
三	六	二		
二	冊	號	類	

內閣文庫		
番號	和	18222
冊數	6 (6)	
函號	201	768



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

G
Y
M

© Kodak, 2007 TM: Kodak



新撰六帖
卷之六
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百



新撰六帖題和歌第六帖

あはれ等 かりのりさ ありれ等 浅草の文庫

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等

あはれ等 ありれ等 ありのりさ ありれ等



あさひ ね あさひら つらね ね あちあひら
 ささね ささね ね あちあひら ね ね
 ね ささね ささね ね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね

むね ね こうね やね ね ね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね
 ささね ささね ささね ささね ささね

ちかちか、ひかちか、ほろ、かり

かへり、うくひと、かへり、よこちか

ちかちか、かへり、さだ、ちかちか

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

まじり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

ちかちか、かへり、さだ、かへり

交は白のよは〜ゆるい海よりとらふるしゆくしと人

秋の草

蝶風のたふも吹くあはらふいふあめちんとあふあ
あゆまきこの秋のきりぎりすたふしつてやとほしめぬ我奴ら
あはあゆるふくせうらり〜うら〜るあふたや〜ふにそあつ
野色（こ）みここのまのちり花のこぼく〜あにこのまをま
蝶とつ〜いそ〜りり〜り〜りのまのまをたふしととひまらな
をらり〜る

あはあらきま〜ゆるい海よりとらふるしゆくしと人
あゆまきこの秋のきりぎりすたふしつてやとほしめぬ我奴ら
あはあゆるふくせうらり〜うら〜るあふたや〜ふにそあつ
野色（こ）みここのまのちり花のこぼく〜あにこのまをま
蝶とつ〜いそ〜りり〜り〜りのまのまをたふしととひまらな
をらり〜る

冬とあはれおはな〜ゆるい海よりとらふるしゆくしと人
あゆまきこの秋のきりぎりすたふしつてやとほしめぬ我奴ら
あはあゆるふくせうらり〜うら〜るあふたや〜ふにそあつ
野色（こ）みここのまのちり花のこぼく〜あにこのまをま
蝶とつ〜いそ〜りり〜り〜りのまのまをたふしととひまらな
をらり〜る

あはあゆるふくせうらり〜うら〜るあふたや〜ふにそあつ
野色（こ）みここのまのちり花のこぼく〜あにこのまをま
蝶とつ〜いそ〜りり〜り〜りのまのまをたふしととひまらな
をらり〜る

あはあゆるふくせうらり〜うら〜るあふたや〜ふにそあつ
野色（こ）みここのまのちり花のこぼく〜あにこのまをま
蝶とつ〜いそ〜りり〜り〜りのまのまをたふしととひまらな
をらり〜る

よよそひのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
このねあつねのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
秋のあつねのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
たまたまのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に

よよそひのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
このねあつねのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
秋のあつねのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
たまたまのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に

よよそひのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に

よよそひのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
このねあつねのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
秋のあつねのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に
たまたまのいよよそひとてあはれにちしほかしの秋に

みくまに樂の方より又人の志あきまをさしたるおあまを
たはる

若くは秋のよき秋風ありけり又秋風ありけり
さきもよき秋風ありけり初秋風の神ありけり
いとよき秋風ありけり秋風のうらみありけり
吹く秋風ありけり秋風のうらみありけり
秋風のうらみありけり秋風のうらみありけり

かき夜より秋風ありけり秋風のうらみありけり
いとよき秋風ありけり秋風のうらみありけり
秋風のうらみありけり秋風のうらみありけり
秋風のうらみありけり秋風のうらみありけり

むくまに樂の方より又人の志あきまをさしたるおあまを
たはる

若くは秋のよき秋風ありけり又秋風ありけり
さきもよき秋風ありけり初秋風の神ありけり
いとよき秋風ありけり秋風のうらみありけり
吹く秋風ありけり秋風のうらみありけり
秋風のうらみありけり秋風のうらみありけり

かき夜より秋風ありけり秋風のうらみありけり
いとよき秋風ありけり秋風のうらみありけり
秋風のうらみありけり秋風のうらみありけり
秋風のうらみありけり秋風のうらみありけり

痛き野色のこゝろ秋風のふきわたる
おれが下のふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが

あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが

あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが
あつたころのふしははくちくちくおれが

高き池よりあらしをさしけりしは

あまの

風吹くまよふたふりしは
もよほのうらみしは
古川のまげをあまはよらふ
あまのうらみしは
いと我今いあまをたけり

祢ねなよん

いあまをいほよせしは
うらみしは
くろくもまたゆめは

秋の葉は有よみよくらん
いほよせしは

あまの

水はあまのうらみしは
あまのうらみしは
あまのうらみしは
あまのうらみしは

あまの

水のあまは祢ねして
あまのうらみしは

水の由は福よとるれしうらむの世に
ささめありてちぬるさう世に
なほしうらむの世に
はむの世に

物産のありにひくく月夜のうらむの世に
月夜のうらむの世に
かすむの世に
月夜のうらむの世に
月夜のうらむの世に
月夜のうらむの世に
月夜のうらむの世に
月夜のうらむの世に

うらむの世に
あはれを福とすも福とす
はむの世に
あはれを福とすも福とす
はむの世に

志のよき

うらむの世に
あはれを福とすも福とす
はむの世に
あはれを福とすも福とす
はむの世に

あはれを福とす

いつよりいふことなりはまを極くあまのつらぬ世を遂へし
我宿し志きくまのふの中よたわふことなりはまをその能
知人ふことなりはまの能ふも今我れ乃をそのさひし
まふといふことなりはまの能ふといふ人わもくそ人はこりく
身よしふことなりはまの能ふといふ人わ世とすけん
せむ

れまをそのは田よ高の地をそのは神もまぬ人ともく高めを
こいぬまもま田わをせよ引芥ハ神よあつれく神の
いづらにあつたふれまをひきり地もよそを世も
つむとそそふまのまをりいもつなまをや神よあふえ
しこまよのいとはよま出くきりつむふ田乃月よ

そまをそのは田よ高の地をそのは神もまぬ人ともく高めを
こいぬまもま田わをせよ引芥ハ神よあつれく神の
いづらにあつたふれまをひきり地もよそを世も
つむとそそふまのまをりいもつなまをや神よあふえ
しこまよのいとはよま出くきりつむふ田乃月よ

たて
川元のふ川高れあそねよ夕日ふひしあそねは水れ
つしむりかそあひかしくはまのうしあひあひつめ
かまほなるかたぐふはく高れよしへみまをりはまの
みかゆにこまをすまはつむ人もまをりあつるれあそねは

うき世よはたかそのまつみく水をたうらぬめよこそ海はあ
まのむらさき

あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし
あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし

あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし
あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし

あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし
あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし

あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし
あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし

あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし
あまのむらさきの宿よかくて雲はたれあへしと誰を待らん
我宿よまきとあまの八重藤木よひは藤もたれそ恋し
年月よあまのむらさきひまひまの海もくにあへし

つらきつらきひはわあのをさうあれたあへきとてほんえええ
さうほらうあうまたほくらあわさうけいつあなりあれほらうん
うさ人さなともあうらにいひそめてあわらうもされたうよあは

まのたのうらう

こまなるほられたらうあうら秋をたうさ極なりとさうり
それらうもまのたのうらうのこまのこまもあうやとれたあはれ
うらうらうのかりあうらう心屋にほられたらうらうらうらう
外心なほらうまのたのうらうらうとあくとあはれまあはれあは
こまなるほられたらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
ひらき

法人乃くあはれをたれたあまうら神のあうみとらうらう

あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう

あままたらとれ

あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう
あうらあはれをたれたらうらうらうらうらうらうらうらうらう

あままたらとれ

浪は乃初波の心は若こもきいそぬうううに終かすれど
みか人の墓よおふまのうね乃またせけもくたうりよか
おふれとまもこゆうく自管れやもをよえ人のこらん
をらあひのし人なうらうかじちの浪田を海を津うらん
をひなうをらひの志の兒を教よなくや神のぬれく折るん
ちく

あふこもいこいおふれうううううれぬあうに家そりひか
いくかといあふももみおふ葉系お世よあわきあしは
あふおふううううううううううううううううううう
ひりの縁うねぬうううううううううううううううう
藤のううううううううううううううううううううう

あふひ

ちりりりあふひれなるるるーとよんの中はけぬるるる
表よりみおれのほのちむるまゆはくへさ我自分らん
あうもみおれのあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
いくこもふそのこもいあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ

みなり

くれぬあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ
あふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひあふひ

さやまがら池のえんすりの福もこのとうらひ人のつらきまじり
 なるのゆはまをよめるんとも人の苦しさをあててもいんとてをよめ
 けしきくはくるとみなりゆりよなりまもれ蓬たにあきたるが
 世よりあつたゆきさうふ人をいらいしつらさうへいちらまなまはし
 まれのとれいしつらさうのつらさうをねりまをいしつらさうのつら
 さうもつらさうまじりあつたゆきさうあつたゆきさうあつたゆきさう
 心置けをのやり水さうにこけしきさうまじりまじりまじり
 谷よりまじり海乃若はまじりあつたゆきさうあつたゆきさうあつた
 まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

ねさうさうのふと海の福もこのとうらひ人のつらきまじり
 なるのゆはまをよめるんとも人の苦しさをあててもいんとてをよめ
 けしきくはくるとみなりゆりよなりまもれ蓬たにあきたるが
 世よりあつたゆきさうふ人をいらいしつらさうへいちらまなまはし
 まれのとれいしつらさうのつらさうをねりまをいしつらさうのつら
 さうもつらさうまじりあつたゆきさうあつたゆきさうあつたゆきさう
 心置けをのやり水さうにこけしきさうまじりまじりまじり
 谷よりまじり海乃若はまじりあつたゆきさうあつたゆきさうあつた
 まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

こほりあり燈もほりるひりきりく入るうきからはあわなく
おのゆ吹かもしたる芝のぬいたくこころあもなかりなり
御とくさの存のうり芝燈若にふをうきりおのり神の
いふるしー世れじくひるまう出身はたふゆと名のお
我宿ハ入ーあふよじつてやとも野もとぬわん
れいふあうりきりまはれくまもあてくまやん
秋の神にちやくの露を添よそらふくはじりのいふ
住るれいともれ野ふやあかんうりまじやにまはるハ
文はくひるまもあふようりひてすーた月よせみりあ
せえ

高きをなく身は我うきうの蝶れじりたぬよあうり
あふれもいふんうにえ蝶乃身さいつらにあうりさうん
才よあふあふまのまぬをわかせこのうりあわら
衣なり身をうりせみれ心くじりたせもあふあまひつ

あひじりあひよあうりるまを我身のうりと人のあは
をうりあふあひもあうりまうりあひあふあふあふあ
あうりあうりあひあひあひあひあひあひあひあひあひ
こころあふあまうりやあひーあふあふあひあひあひ
はよたくあふあふあひあひやあふあふあふあふあふあ

いふるしー

昔ぬれはるにうつしやまのくもを座のあつらにうつしおん
えなむ我あふるはまのくもを座のあつらにうつしおん
三つくもをうつしおんをすははれはみみくもをうつしおん
我が高き昔のくもをうつしおんをすははれはみみくもをうつしおん
吹風よるひくもをうつしおんをすははれはみみくもをうつしおん
松の原秋を東雲より拵て名をよほれをよほれをよほれをよほれを
浪の原秋を東雲より拵て名をよほれをよほれをよほれをよほれを
夕暮の原秋を東雲より拵て名をよほれをよほれをよほれをよほれを

松の原

むきれはあつらにうつしやまのくもを座のあつらにうつしおん
えなむ我あふるはまのくもを座のあつらにうつしおん
三つくもをうつしおんをすははれはみみくもをうつしおん
我が高き昔のくもをうつしおんをすははれはみみくもをうつしおん
吹風よるひくもをうつしおんをすははれはみみくもをうつしおん
松の原秋を東雲より拵て名をよほれをよほれをよほれをよほれを
浪の原秋を東雲より拵て名をよほれをよほれをよほれをよほれを
夕暮の原秋を東雲より拵て名をよほれをよほれをよほれをよほれを

いふ人のゆゑにさういふことゝなるべし
かゝる

なすき好いほのまれたるれは下あたのあよふさき
おきひいのみさそ衣され何れおひよとえん
宿のあせと人かゆさぬあさうふあさう管れ新そあ
あつさむしをさぬくぬきひいふたふは乃こ
かゝる

秋乃歸よこしむらじ一此秋をきみ非う衣れいそらん
おれそ露のおきとて秋おはなこむらじ一此秋をきみ非う
あよのあよいひいひい一此秋をきみ非う衣れいそらん

秋乃歸よこしむらじ一此秋をきみ非う衣れいそらん
おれそ露のおきとて秋おはなこむらじ一此秋をきみ非う
あよのあよいひいひい一此秋をきみ非う衣れいそらん

秋のあよいひいひい一此秋をきみ非う衣れいそらん
おれそ露のおきとて秋おはなこむらじ一此秋をきみ非う
あよのあよいひいひい一此秋をきみ非う衣れいそらん

秋のあよいひいひい一此秋をきみ非う衣れいそらん
おれそ露のおきとて秋おはなこむらじ一此秋をきみ非う
あよのあよいひいひい一此秋をきみ非う衣れいそらん

物はあれきりひくしれあつらひのまもみあつし何故うへ
へんうえて

日よそく末をうへふわつてえくちくも秋もまはれり
解のまよ名のうへえと冷めれとあまを解るあも何故
先れまやとひええとつのもたえと秋の風はうん
まうけてとたれと秋の楓もあつしとあまいそく
秋つづつ解のまよせてうへまうわのまはえておまあ
り

と解りしれあつらひのまもみあつし何故うへ
たさむたあつらひのまもみあつし何故うへ
うのまよと何故うへ

庭のうへの松よさるあつらひのまもみあつし何故うへ
たさむたあつらひのまもみあつし何故うへ

花よと人しすあつらひのまもみあつし何故うへ
あつらひのまもみあつらひのまもみあつし何故うへ
たさむたあつらひのまもみあつし何故うへ

うへまよとあつらひのまもみあつし何故うへ
あつらひのまもみあつらひのまもみあつし何故うへ

もんせて年あつ竹のうらうら花はお花をかりてあつたぬ
 教なすお志のうらうら花は竹のうらうら花にけせをけけん
 教は竹のうらうら花のうらうら花にけせをけけん

竹のうらうら花のうらうら花にけせをけけん

呉竹乃とされてさるる様うらうら花にけせをけけん

いて家もよおつ竹のうらうら花のうらうら花にけせをけけん

おひあつたのうらうら花のうらうら花にけせをけけん

生たむおの教あつ竹の子にけせをけけん

いくさしおおつ竹の子の教あつた人乃んけせをけけん

日教まつまをさると白岩下なるは白岩乃とる花

日教まつまをさると白岩下なるは白岩乃とる花

家せこにはうらうら花はあつたぬ
 吹風も公やもくやもあつたぬ
 雲をせけさるるのうらうら花のうらうら花にけせをけけん
 やあつたぬおつたぬおつたぬおつたぬ

くれなをけけんのうらうら花のうらうら花にけせをけけん
 おのうらうら花のうらうら花にけせをけけん
 世にけせをけけんのうらうら花のうらうら花にけせをけけん
 宿乃梅乃うらうら花のうらうら花にけせをけけん
 夕白うらうら花のうらうら花にけせをけけん

やつたぬ

あきなりと思ひをめてしつとてあてんごとく花さくらうま
ひさくらう

たゞ人ともいふようみじし梅さきのとけしに世をぬ
いさふあかりのけりせんあつとをそ風のきこへきし梅さ
ゆふしの空根よきうまひさくら梅のうちをえんうま
ひさくら花のあつた白をいさもたつてゆえん
くれとけむし梅山梅うくれちりそ梅さむし
梅さくらう

思もさう秋葉の宿れをさくらうららひぬとも梅さきは
さくら人のけさよみぬ梅さくらうららやま梅花のさくら
いつれにさくらうて梅をせよらん梅れさみちあらん

あきらむるはあはれ梅をさよらつていらぬうららあやん
うららみちあうらら梅を梅さくらうらら梅さよらう
ひさくらう

みちし梅さきはあはれ梅をさよらつていらぬうららあやん
春さやうひさくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら
あはれ目影もあはれ梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら
秋さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら
あはれ梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら
あはれ

あはれ梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら
梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら
梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら
梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら梅さくら

谷うれ散の古枝乃ひこそんくあるひもななく花咲ぬり
流まの衣のこかりそめ花のともまをさひてそ花咲ぬり
心うさるやふら浪ひきまて海とともうく岩根松の乳
きりららら

梅乃自ふ水端乃夕やみよじうあうそ風そ涼き
さうらそ乳の香さかうりしそあ花よをさひるは好もあ
そふまそ人さじしそあそん我あそまそぬ宿れそらか
あそ乃花そらそそな枝おようそあそあう一じしそ
いそれそたそたそなる梅乃わそそあそあそいそあそん
あつそそらら

いそれそあつ梅乃自ふ香ようそあそたそそ涼引ん

名よりあふあつそらそ乳花さそそあそ衣の袖の香やそん
とそいそあそあそそあそくじしそあそあつ梅乃年へそそら
なふそ自ふあつそらそな枝の香は涼しそあそ月につそあ
そあそ人のいそよそあそ神のそあつ梅乃あつひたそら

志井

ひうれそあそあつそらそ乳花さそそあそ衣の袖の香やそん
いつのそあつ梅乃あつそらそあそあつ梅乃あつひたそら
あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃
いそあつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃
あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃あつ梅乃

あ

奉一あれとちり守さうつまなすはあらぬ物も身はさぬ
いづらにあらぬうらなす年をく身は救うらにぬまうら
何よあひく枝とくゆらぬさうらうらにすは枝さうら
うら枝のうらもなすはさうらうらにすはひの人も
何よぬ花とみさういせの海乃あめうらなすは
いづらに
是東乃いすは花さうらうらまなひくもはぬら
さうらうらぬ枝とくゆらぬ枝よかぬらさうら
いづらに
いづらに花のあめうらうらさうらうらさうら
あうらにせうらうらぬらうらうらうらうらうら
うらうら

いづらに子代もうらうらうら八言桃乃花のさうら
朝日影自入る桃乃花さうらうらうらうらうら
人くもさうらゆらぬ枝とくゆらぬ枝よかぬら
いづらに
いづらにそのあめうらうらうらうらうらうら
いづらにそのあめうらうらうらうらうらうら
いづらにそのあめうらうらうらうらうらうら
いづらにそのあめうらうらうらうらうらうら
いづらにそのあめうらうらうらうらうらうら
いづらにそのあめうらうらうらうらうらうら

梅橋それいさう人へ酒月なまそと花をさうといふん
から桃

いふしてよめひ初らん日の本は我あなううと花
のわらうたのいよはさきさきものうらなぬわ桃の
かやうな桃もきそと桃のやまといふあな花の
こほりていさやのみをよとわら桃乃花のあなを
こほりていさやのみをよとわら桃の地といふ花よの
くはん

友心乃とそおきよあうらみさうらあはれは
可あまのあうらうらあはれはあうらあはれは
うらあはれはあうらあはれはあうらあはれは

友心よとそおきよあうらみさうらあはれは
可あまのあうらうらあはれはあうらあはれは
うらあはれはあうらあはれはあうらあはれは

これあのをらをれい乃とそおきよあうらみさうらあはれは
可あまのあうらうらあはれはあうらあはれは
うらあはれはあうらあはれはあうらあはれは

あうらあはれはあうらあはれはあうらあはれは
あうらあはれはあうらあはれはあうらあはれは
あうらあはれはあうらあはれはあうらあはれは

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの
たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを
いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

あつれと秋の夕よはるるれをにみううううにたううしうの

たぐいのねまはじりけりもあまううううあそもふそれを

いそんあわの心のしらのまはるれう一人をわされういつる

表より人の心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
いふゆゑあまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ

うれはれ我れがや敷きまうとたも祿り可れん
いふゆゑあまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ
あまの心もさうさうのさうなれ乃祿さうすれ

あまの心

せうしゆのあつしんる人のすむじゆにうぬのたつての智をも
こころの我をもちかひなるれはるのやみのちをさそふ
若鷲もた人の年やつりるむじゆをみかそこにみぢる白
うしよのさよひるるたれはるをもを衣はれむらぬ
やうなむらぬのさうらぬはるむねくよるはるをさむら
かへりて
おもひはる小田はかりのる唐金れをを中えて今世をさる
おもひはる初一人はれはるて舞のさあはるいろがうり
あつしゆのさうれはるのさうらるるをさうられはるるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう

うらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうら

あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう
あつしゆのさうらるるあつしゆのさうらるるさうらるるさう

我唐の心のみきれききれはあはけりすそきもたを

唐の心のみきれききれ

とてそきもたをけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

はあはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

はあはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

はあはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

唐の心のみきれききれ

よききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

よききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり
あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

唐の心のみきれききれ

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

あはけりしききれはあはけり部はあはけり乃ききれはあはけり

心は舞の指乃じううは終らうあふ々を言はれり
とまはし里へなをせううはうと死をよわらふれあふ
月をて心は指のきりきりううれかきよわらふ
さだ
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり

粟公さてあくはううと死を言はれり
ううはれくあくれううと死を言はれり
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり
いつ川あをせもあうと死のみのきりて月を言はれり
朝も死を言はれあふと死を言はれり

七々れ天の河津のそととてもなとかうたれわさし初々れ
川によして煮やうるれ天の系を井よたれたさるれ河
天川よとととにいとたうり秋のいとよたうさのり
びらむの夏たうさうらうておゆしかうたの後ととん
鶴のつとさるさうけりてあいにさるかよ後し初をん
ととと
賜れわらぬえのそれもお松くわしとて原よ嫁そ昔め
風やうらぬれと急よのすて秋のさうとととわが
りそれわら野をたさ系の末さるれをぬもやとめは秋風
見よとせし村唐懸なとてやうれとてつ将人のさびさ
細糸らうとてれわらと急れ秋風よあさうらわぬ懸そ
さる

くわが

なれ東へ往うりゆら天の戸とまもそ水鶴れたうら
天の戸も程やあ鶴のたうらむさもゆやすれ夏乃をさ
誰さうとととく水鶴よとととん我何有いとと人そなれ
何うそれ帯帯のあ鶴乃たうらと急うととてはのとととわ
あふの戸はさうととと事おのほよあく水鶴れ人
いとととと

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters "萬治三庚子年仲春吉旦" and "中野五郎光衛門判行".

萬治三庚子年仲春吉旦
中野五郎光衛門判行

女房 前内大臣
衣笠家良

前藤大納言

九条入道三位

前左京權大夫

入道左大臣

寛元三年十一月廿一日始之

同二年三月廿九日始之

寛元三年十一月十三日始之

同二年二月廿四日始之

寛元三年二月六日始之

同二年六月廿七日始之

寛元三年十一月廿九日始之

同二年正月十三日始之

寛元三年十二月廿一日始之

同二年三月廿五日始之

人並才入轉

前以宗節入官

以宗入殿三郎

前藏大御寄

女成

宗節入官
前以入官

同二年三月廿五日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

同二年三月廿二日所入

